

2) DID との重ね合わせ

昭和 35 年時点 DID、昭和 35 年から平成 17 年の間に DID 化した地域における液状化危険度の大きい地域の状況を把握した。特徴は以下のとおりである。

- ・昭和 35 年時点 DID では、新潟島（万代島）の沿岸部、通船川沿岸で液状化危険度が大きい。（図 2-33 参照）
- ・昭和 35 年以降に DID 化した地域では、西区中心部、旧黒埼町中心部、通船川沿岸、小阿賀野川沿岸など新潟市の郊外で液状化危険度が大きい。（図 2-33 参照）

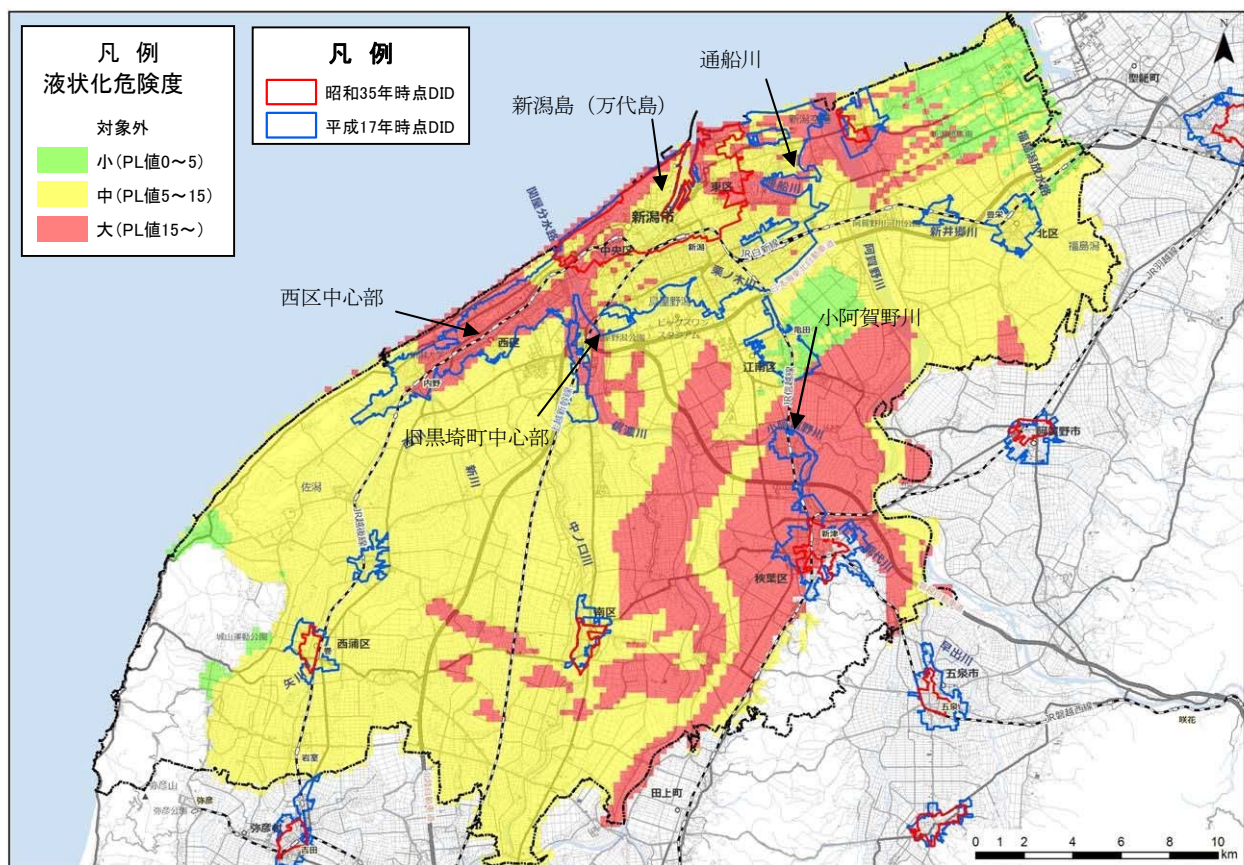


図 2-33 液状化危険度と DID の重ね合わせ図

3) 高齢化率および昼夜間人口比との関係の分析

液状化危険度の大きい地域における高齢化率の高い地域、昼夜間人口比の大きい地域の状況を把握した。概要は以下のとおりである。

- ・液状化危険度とあわせて、高齢化率、昼夜間人口比が高く、液状化が発生した際の課題が大きいと考えられる地域として、新潟西港周辺地区などがある。(図2-34 参照)

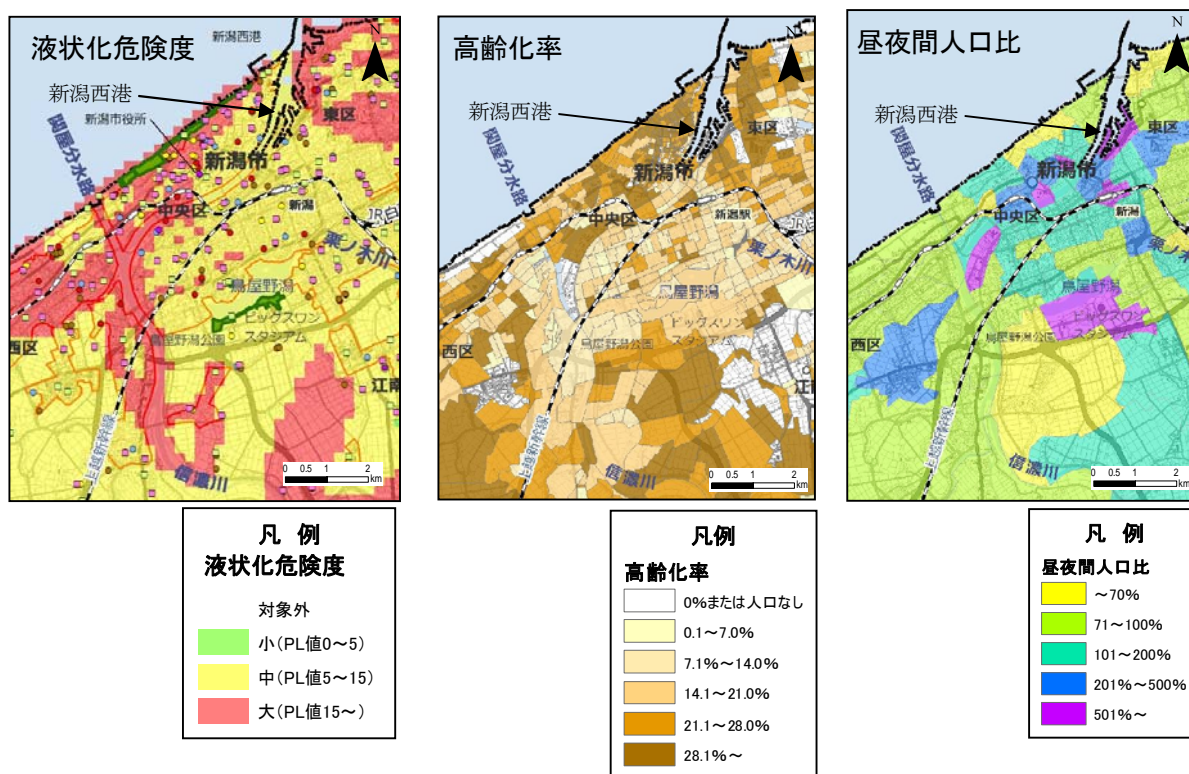


図2-34 新潟市中心部の液状化危険度分布と高齢化率・昼夜間人口比